

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	佐藤 克士
2. 審査委員	主 査：(兵庫教育大学教授) 吉水裕也 副主査：(上越教育大学教授) 志村 喬 委 員：(兵庫教育大学教授) 原田智仁 委 員：(兵庫教育大学教授) 關 浩和 委 員：(岡山大学教授) 桑原敏典
3. 論文題目	小学校社会科産業学習論研究
4. 審査結果の要旨	<p>先端課題実践開発専攻先端課題実践開発連合講座 佐藤克士 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成29年 2月21日(火) 16:00～16:40          場所：兵庫教育大学 共通講義棟 207教室</p> <p>(1) 学位論文の構成と概要</p> <p>序 章 研究の意義と方法</p> <p>第1章 社会認識形成と世界像形成の統合による「産業学習」カリキュラム編成論</p> <p>第2章 グローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論</p> <p>第3章 グローバル化した社会の認識形成をめざす水産業学習</p> <p>第4章 グローバル化した社会の認識形成をめざす観光産業学習</p> <p>第5章 グローバル化した社会の認識形成をめざす身近な地域の農業学習</p> <p>終 章 本研究の成果と課題</p> <p>本研究は、小学校社会科産業学習の全体構成に関わるカリキュラム編成論を検討するとともに、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論を提案しようとするものである。この目的のために、序章ではこれまで提案されてきた産業学習に関する研究成果の特質と課題をカリキュラム研究及び授業研究の二つの視点から整理した。</p> <p>第1章では、産業学習のカリキュラム編成論に関して、社会科教育系の学会で定評があるイングランド地理教育における「産業学習」を事例に、社会認識形成と世界像形成の二つ視点から検討した。具体的には、社会認識形成に関しては、『ナショナル・カリキュラム地理(KS3)』に示された地理学の成果を中心とする七つの鍵概念(「場所」、「空間」、「スケール」、「相互関係」、「自然的プロセスと人文的プロセス」、「環境の相互作用と持続可能な開発」、「文化の理解と多様性」)の獲得及び活用を通して、科学的な社会認識が系統的に形成される構成となっていた。一方、世界像形成に関しては、第一次・第二次産業の学習では国内の、第三次産業では国内外の特色ある地域</p>

が事例地として選定され、これらの事例地の学習を通して段階的に子供の地理的空間が拡大されるよう構成されていた。また、そのために、第一次・第二次産業の学習ではナショナル・スケールを基盤とする英国地誌学習が、第三次産業の学習ではグローバル・スケールを基盤とする世界地誌学習が展開されていた。これらの学習では、いずれも多核的同心円拡大法の論理に基づき、ローカルまたはリージョナル・スケールの事例地が複数箇所選定されており、これらの場所の地理的特色について学習することを通して、（自国の）国土や世界の諸地域に関する認識及び国土像や世界像が体系的に形成されることを明らかにした。

第2章では、これまでの産業学習研究の特質と課題を内容論的アプローチと方法論的アプローチの二つの視点から検討した上で、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論を提起した。具体的には、近年の地理学や社会学等の空間論研究の成果をもとに、今日のグローバル化した社会を「異なるスケールの相互作用によって、絶えず空間が変容する社会」と規定した上で、社会空間の重層性や構築性を異なるスケールの関係性から多面的・多角的に捉えさせる授業構成論を提案した。本授業構成論は、「空間のプロセスを認識する段階」、「社会空間の重層性・階層性やスケール間の関係性を認識する段階」、「持続可能な社会空間を創造する段階」という三つのパートから構成することで、今日のグローバル化した社会の特質や本質を認識させるとともに、獲得した知識や概念を活用して持続可能な社会空間について考察することをめざすものである。

第3章では、グローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の具体として、水産業を事例に単元構成の論理と授業モデル、及び本授業の成果について実践の事実を示しながら、具体的に論じた。

第4章では、グローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の具体として、観光産業を事例に単元構成の論理と授業モデル、及び本授業の成果について実践の事実を示しながら、具体的に論じた。

第5章では、グローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の具体として、身近な地域の農業（第三学年）を事例に単元構成の論理と授業モデルについて具体的に論じた。

終章では、本研究の目的である小学校社会科産業学習の全体構成に関わるカリキュラム編成論の検討と、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論の提案の二つの研究課題について成果と課題をそれぞれ三点ずつ述べた。

## （2）審査経過

本研究は、小学校社会科産業学習の全体構成に関わるカリキュラム編成論を検討するとともに、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論を提起することを目的としたものである。

本研究の成果は三点に整理できる。第一に、イングランド地理教育を分析対象として、わが国のそれとは異なる論理で編成されている「産業学習」カリキュラムを、社会認識形成と世界像形成の二つの視点から解明したこと。第二に、これまでの産業学習研究の特質と課題を内容論的アプローチと方法論的アプローチの二つの視点から検討した上で、今日のグローバル化した社会の認識形成をめざす産業学習の授業構成論を近年の地理学や社会学等の空間論研究の成果をもとに整理し、提起したこと。第三に、第二の成果で述べた授業構成論に基づき、水産業、観光産業、身近な地域の農業を事例に、具体的な授業モデルを開発するとともに、実験授業を通してその有効性を検証したこと、である。

これらの点から、本研究は、社会科授業実践の改善に貢献するものであるとの高い評価を得た。

## （3）審査結果

以上により、本審査委員会は 佐藤克士 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。